



Reach Within to Embrace Humanity

こころの中を見つめよう
博愛を広げるために

国際ロータリー第2660地区

吹田西ロータリークラブ ウィークリー 2011-2012

■創立 1980.6.12

事務所 ☎564-0051 吹田市豊津町9番40号 江坂東急ビル1F
☎(06) 6338-0832 FAX (06) 6338-0020
URL <http://www.suita-west-rc.org>

例会場 新大阪江坂東急イン
☎564-0051 吹田市豊津町9番6号 ☎(06) 6338-0109

例会日 毎月曜日 18:00~19:00
役員 会長：阪本勝彦 幹事：紙谷幸弘 会報委員長：榎原一滋

4

つのテスト ●真実かどうか ●みんなに公平か ●好意と友情を深めるか ●みんなのためになるかどうか

第1426回例会 平成23年8月22日

卓話「私の職業」 西村会員
「私の職業 総物流について」 田中(慶)会員

今週の歌「おゝロータリー」

「ロータリーの理念と精神の追求」

先週内容

会長挨拶

阪本会長



○今日は立秋、暦の上では秋の始まりです。特に蝉の鳴き声が響きます。それでもまだまだ暑い毎日です。2日～4日迄、盛岡市を訪問して頂いた皆様ご苦労様でした。状況については話があると思いますが、私達に出

会員増強・拡大月間

次週 第1427回 例会予告 平成23年8月29日

卓話「マイホーム発電エネファーム」
大阪ガス㈱リビング事業部 リビング開発部
販売企画チーム サービスチェーングループ
課長 前田 正史 様
阿部会員ゲスト

Weekly No. 1426は榎原委員長が担当しました。
Weekly No. 1427は井伊委員が担当の予定です。
(本日の原稿をお渡し下さい)

来る事は全員で考えてみたいと思います。ご協力をよろしくお願いします。

- 7月にお渡しした防災グッズですが、持ち出しチェックリストを入手しました。全員に渡していますので、是非参考にして下さい。
- 本日例会の食事は従来と趣きが違います。楽しく味わって下さい。

幹事報告

紙谷幹事



- 2月5日に行われました第2組IMの報告書が届きましたのでお配り致します。
- 来週8月15日、例会は休会です。
- 事務局、16日(火)、18日(木)は休みです。

出席報告

吉田委員長

- 会員数 48名 ●来客 0名
- 出席会員数 37名 ●本日の出席率86.05%
- 7月11日の出席率(メーキャップを含む) 100%

社会奉仕委員会

木田委員長

8月25日(木)、ビケンテクノ様に於いて献血を実施致します。時間は午前10時～12時・午後1時～4時となっております。多くのご参加ご協力をお願いします。



本日、坂口会員より、特別寄付を頂きました。
ご協力ありがとうございました。



- ◆ 阪本会長
高木会員お世話になりました。盛岡訪問
ご苦労様でした。
- ◆ 木田会員
岩手より無事帰ってきました。復興ぞうき
ん購入ありがとうございました。参加頂い
た皆様、ご協力ありがとうございました。
- ◆ 西村会員
妻の誕生日祝いありがとうございました。
- ◆ 梶山会員
よろしく願い申し上げます。
- ◆ 本田会員
8月7日、初孫が生まれました。小さな命、
輝いています。
- ◆ 瀧川会員
わんこそば早食いチャンピオンです。
- ◆ 高木会員
東日本大震災視察ごくろうさまでした。
- ◆ 紙谷会員
被災地視察訪問から無事帰ってきました。
- ◆ 榎原会員
今月14日に誕生日を迎えます。53才、え
らいこっちゃ!

本日のニコニコ箱	33,000円
累計のニコニコ箱	201,000円

「お盆」ってなあーに」

本田会員



お盆とは正式には「盂蘭盆(ウラボン)」と
書き、「逆さ吊り」の意味だとされます。

お釈迦様の弟子、目蓮尊者は、死んだお母さ
さんが今頃どこで、どうしているだろうかと、神
通力を持って観察したところ、お母さんは生前、
目蓮可愛さの余り、他人に対して余りにもけ
ちだった為に、その報いとして、死後、恐ろし
い餓鬼道に落ち、逆さまに吊るされ、空腹に苦
しんでいることがわかりました。そこで目蓮
尊者がお釈迦様に「どうしたらお母さんを餓
鬼道から救い出せるか。」をお尋ねしたところ、
お釈迦様は「現在の暦では、七、八、九月の僧
侶が修行する行事が終わった反省の日に供養
せよ。」と教えて下さった。

「仏説盂蘭盆経」の教えに基づき、故人を偲び、
そのご恩に感謝するのが盂蘭盆会です。

尚、盂蘭盆会の期間には地獄の釜が開いて、
亡者がこの世に帰ってくる、お盆が終わると
亡霊が天空の彼方に帰って行く。その道を照
らすのだということで、京都では「五山の送り
火」が8月16日の夕刻に行われます。

命をかんがえましょう!

「東日本大震災視察について」

社会奉仕 木田委員長



それでは、視察報告をさせていただきます。

一日目。いわて花巻空港に到着。盛岡西RC
より長谷川会長・高松幹事・佐々木社会奉仕

委員長・窓口になっていただいた千田会員及び盛岡西RCとの関係を築いてくださった、岩手めんこいテレビの村田さんがお迎えに来てくれました。挨拶と記念撮影をし、村田さんに同行いただき、早速バスで被災地視察に向かいました。

経路としては、遠野をへて釜石→大槌町→山田町→宮古を視察しました。この被災地到着まで休憩をしながらですが、約3時間のみのりでした。ちなみに盛岡から片道約100kmあり、移動時間に2時間以上かかります。岩手県の広さには驚かされました。南北で200km、東西で150kmの面積があります。東北大震災の被害地は400kmにわたります。

遠野町に立ち寄り支援事務所へ行きました。たまたま大阪よりこられていました、関西広域連合現地支援本部の所長、芳本様とお会いでき、少しですがお話を聞けました。被災地に滞在することは出来ず、今は遠野を途中拠点として、盛岡より被災地へ向かうことになっているそうです。

道中に於いては、村田さんがメディアとしての現地のお話を話してくださいました。阪神大震災の教訓は生きていて、自衛隊は動きが機敏だったそうです。また、自衛隊は、死体が埋もれていた場所に赤旗を立てていましたが、その旗がすごい数でなびいていたことが、すごく印象的であったそうです。一関市は内陸部でも今回の被災で34棟が倒壊しています。大槌町は行政が機能していません。よって物資の管理も出来ない状態で、満足に町民に物資が行き渡っていないようです。とのことでした。

現地に到着すると、信じられない光景が目に入ってきました。広大な土地にポツポツと半壊状態の家が残り、瓦礫はまとめてあり片付けていましたが、まだまだ復興には至っていませんでした。かろうじて残っていたゴルフ練習場のフェンスを立てる柱だけが、以前はここに町があったことを教えてくれていました。神社は殆どが残っており、当時の重要な建物は、より安全な場所に建っていたことを物語っていました。

大槌町では石碑を見つけました。ここには、昭和8年に起きた津波の教訓が書いてありました。(先ほどの写真の分です。) 続いて漁港へ向かいましたが、機能はしているものの活気が全くありませんでした。そこから歩いて数分の商店街にある復興物産館へ行きましたが、こちらでも少数の地元の人が買い物をしているだけで、まったく活気がありませんでした。

被災地の調査を終了し、盛岡に向けて出発しました。この日は盛岡より少し離れた鶯宿(おうしゆく)温泉の森の風に宿泊しました。

翌、8月3日、盛岡支援センターを訪問しました。このセンターは農林中金のあったビルで頑丈そうな建物でした。しかし、震災のみならずリーマンショックなどの影響もあり、経済的な問題は震災以前からあったのが本音だと思います。こちらの所長は寺井さんという方でした。私たちに現況を説明していただきました。

岩手県の大槌町では、被災者はお盆までに全員仮設住宅に入れるそうです。避難所ではプライバシーが無いなどの不自由がありました。仮設住宅に入るとそういった問題は解消されますが、入ったら入ったでまた新たな問題が発生します。仮設住宅では物資の支援がなくなり、食品・光熱水道全てにお金がかかります。殆どの方は仕事を再開出来ず、この先暮らしていくことができるのか不安な方が多いです。義捐金は、一世帯にこの4ヶ月で30万円届いています。でも1ヶ月当たり8万円弱と、やはり生活は苦しいようです。母親達は子どもに満足に食事を与えられないことを悩んでいます。

また、被災地は地盤沈下を起こしており、1m位は沈んでいて土地の形状も変わっています。さらに被災者には仕事がなく、時間をもてあましてることがストレスになっています。そこでこの復興センターでは、この時間的なストレスを緩和するため、「復興ぞうきん」としてぞうきんを作ってもらい、パートタイマーで労働してもらい、生き甲斐を作るという活動を始めました。ちなみに「復興ぞうきん」は200円が人件費で材料が100円、合計300円で売っています。みなさん買ってあげてください。20本限定ですがおねがいします。足らなければ送ってもらうようにしております。

今後の被災者支援としては、子ども達の心のケアとして、動物たちとふれあうことでストレスをなくすようアニマルセラピーをしたり、大槌町に図書館を作り本を読める場所を作りたいとのこと。これらは両方とも莫大な金額がかかるので行政が行うべきところですが、行政機関も津波により全部流されてしまったため、交渉できる機能も無く、国に対して要望も出せない状態です。

大槌町の被災者は、盛岡には2000人以上が避難していますし、被災地については少ししか動きがありません。この支援センターでは仮設住宅で困っている方のために、支援物資を展示し、無償で買い物できるようにしてい



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

2011-2012 Weekly Bulletin ROTARY CLUB of SUITA-WEST

ます。私は身近なところでは、このようなセンターへ物資を直接郵送してあげるのもひとつだと思いました。

支援センター打ち合わせ後ホテルへ戻り、その際、橋本会員が連絡を取り合っていた、岩手県支援のための大阪府の派遣職員とお話しました。

夕食時には、わんこそばを食べる夕食会場に、盛岡西RCの長谷川会長と千田会員をお招きして、わんこそばの食べ方を教えていただき、のちにさんさまつりの見学をするなど楽しい時間を過ごしました。

盛岡市に於いては、岩手県が被災にあったという感覚はなく、全然、別な場所に感じました。この席で印象に残ったことは、現地を見てもらうこと、来てもらうことが地元の皆さんの願いのようです。盛岡には、観光客の80%くらいが東北3県から来ますが、関西より西だと10%も来られることはないそうです。

8月4日最終日に於いて、9時から12時までは、石割さくらやもりおか歴史文化館を観て来ました。

続いて、12時半からは盛岡西ロータリークラブの例会にメーキャップへ行きました。例会中は、自己紹介や各テーブルにおいての懇親を深めました。また、瀧川パスト会長によるバナー及びおみやげの交換会と、阪本会長代行挨拶をいただきました。

例会終了後、13時50分から約1時間にわたって盛岡西ロータリークラブと復興支援検討会議を行いました。情報は当クラブよりリアルにあるものの、支援についての方法はまだまだわかっていませんでした。

ここで情報として聞いたことをまとめますと、

- 義援金や物資は生活できるぎりぎりのレベルで揃っているようです。
- この岩手では仮設住宅がほとんどできあがり、盆までには全ての被災者が入居できる状態になります。しかし、光熱水道費や食料品などの生活必需品の購入は、収入がないにもかかわらず必要になってくるので問題が起きそうです。

- 仮設住宅での水は、場所によっては井戸水を使っているのでは飲めない人もいます。
- 復興の状況は、瓦礫があちこちに集めてありますが処理が出来ません。これをどうするかが問題となっています。(ゴミ処理場への運搬等ですが、当然、自治体だけでは支援が足りていません。)
- やはり被災地は浜側ということで漁業が中心であり、必需品はコンテナ型の冷蔵庫や、船、そして、労働する場を設けること。
- 小学校は、通学も出来ないので再開不可能。
- 内容が大きなものばかり残っているので、クラブ単位ではできないものが多い。
- 実際に被災しているロータリークラブはほとんど機能せず、3ロータリークラブはすでに廃止しました。被災されたロータリークラブとの共同事業は非常に難しく思います。

以上のように、たくさんの意見交換が活発に行われ、もっと論議をしたかったです。時間の関係上、途中で切り上げました。まとめとしまして、やはり盛岡西ロータリークラブに於いては、被災地から100kmも離れており、被害もなく、感覚は当吹田西ロータリークラブと変わらなく思いました。

しかし、情報は当然、盛岡西ロータリークラブの方がより早くたくさん伝わります。一度、親交を深めることが出来たことによって、この大震災のより詳細な支援が出来るのではないかと感じました。今後、メール等に於いて情報交換を密に行い、事業へと結んでいくことを約束し終了しました。



サマーバイキングでのフラダンスショー